

「生きよ」という声 鮎川信夫のモダニズム

岡本勝人著

四六上製 / 288 ページ / ISBN978-4-86528-141-5 C0095 / 定価 2,700 円 + 税



鮎川信夫とは誰か？

異様ともいうべき母との関係、兄弟同然だった吉本隆明との論争と訣別。これまで論じられることのなかった側面に光をあて、戦後詩史に一石を投じる力作評伝。

エピソード	第十章	第九章	第八章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章	プロローグ	目次
	残されたもの	八〇年代	故郷	吉本隆明	抒情	〈戦後〉	風景	切斷	接統	出版		

石原吉郎、黒田三郎らに続く
いま、再評価されるべき
戦後詩最重要詩人の肖像

鮎川信夫（1920～86）詩人、評論家、翻訳家。戦前から詩作をはじめ。スマトラ島から帰還後、田村隆一らと詩誌「荒地」を創刊、戦後現代詩の創始者のひとりとなる。

岡本勝人（おかもと・かつひと）

1954 年生まれ、詩人、文芸評論家。評論集に『ノスタルジック・ポエジー 戦後の詩人たち』（小沢書店）、詩集に『シャーロック・ホームズという名のお店』『ビーグル犬航海記』（ともに思潮社）がある。

左右社

150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-7-6 金王アジアマンション 502
TEL 03-3486-6590 / FAX 03-3486-6584

注文書	貴店印	〈注文扱〉	岡本勝人著
			「生きよ」という声 鮎川信夫のモダニズム
	月 日	部	定価本体 2,700 円 + 税 ISBN978-4-86528-141-5 C0095

ご担当 様